

平成 21 年度水と緑の森づくり事業による森林整備の 5 年経過後の評価について

○里山再生整備事業による森林整備の 5 年経過後の評価(事務局案)

(1) 目指す森林の姿

地域資源としての木材等の利用、森林浴や環境教育の場の提供、生物多様性の保全、野生動物との棲み分けなど、森林の状態、生息・生育する動植物などを考慮し、地域ニーズを反映した多様な里山を目指す。

(2) 評価対象

平成 21 年度事業実施地区 37 地区・333ha (詳細別添一覧のとおり)

(3) 評価方法

里山管理利用計画で示された「整備の目的」の達成状況や地域住民等の活動状況等について、現地確認や実施地区からの聞き取り、アンケート調査を行い評価。

(4) 調査結果

いずれの地区においても、地域住民等の主体的な参加のもと、刈払いや再生竹の除去など里山の維持管理活動が行われ、ほとんどの地区で整備後の明るい里山が維持されており、地域住民は当事業に対しおおむね満足している。

また、一部の地域では、タケノコ堀や伐採木を活用したキノコ栽培、森林浴の場としての利用等、里山の利活用についても積極的に進められており、今後更に、活動の活性化が期待される。

(5) 評価結果(事務局案)

平成 21 年度里山再生整備事業による森林整備の 5 年経過後の評価

達成	ほぼ達成	未達成
----	------	-----

別紙の評価判定シートのとおり、各地区について判定基準に従い評価したところ、「達成」が 35 地区、「ほぼ達成」が 2 地区であった。

以上のことから、平成 21 年度里山再生整備事業は、「達成」と評価できる。

(6) 今後の対応

地域住民等による維持管理が行われているが、旺盛な成長を見せる再生竹等が繁茂し、整備後の状態を維持するのに苦慮している地区が見受けられることから、竹資源ネットワークの活動や里山リーダーセミナーの開催など、里山の継続的な維持管理活動や里山資源等の利活用にあ資する支援を、今後も継続して実施していく必要がある。